

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202502		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙織音		
所在地	静岡県静岡市清水区草薙2丁目22-10		
自己評価作成日	令和2年8月5日	評価結果市町村受理日	令和2年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202502-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2 年 9 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が心地よく働ける環境作りが、入居者様への細やかなサービス・ケアに繋がっていると感じています。看取りも今後、増えていく状況になってきていますので、更に1日1日を大事に入居者様にメリハリのある時間を、過ごして頂きたいと努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅から近い事業所なので、交通の利便性が良く家族や知人は面会に電車を利用して頂くことができます。近隣には昔馴染みの商店や食べ物屋さんがあり、コロナ前は散歩をしながら昼食に出掛けたり、買い物に出掛けていた。事業所内は清掃が行き届き、整理整頓ができています。家族に送っているお便りは利用者の様子がわかるよう工夫されていて、温かみを感じられる。自治会の役員が事業所の運営に協力的で、運営推進会議に役員や婦人会の方が毎回参加をし、意見を述べてくれるので運営に活かしている。地区が防災にも力を入れており、地区の役員が避難スロープを作ってくれた。運営推進会議では報告、意見交換以外に地域の方に会議が有効なものとなるように毎回テーマを決め、職員が順番に講師となり、研修を行なっている。職員同士は互いに何でも言い合える関係で管理者にも自分の考えが言いやすい良い関係性ができている。産休や育休を経て現場に復帰した職員に対し、職員同士カバーして勤務している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域につながる理念のアイデアを出し合い、いろいろな言葉を集め作りました。	開設の時に職員皆で話し合って作った理念で、理念は玄関や居間、事務所に掲示してある。法人の評価制度で理念について記入する箇所があり、年々正確に記入できるようになっている。2ヶ月に1度の定例会でも理念を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	近くのお店の方、近所の役員の方また役員でない方も、散歩や買い物、ゴミ出し時等、会えば挨拶を交わしています。	自治会に加入しており、散歩や買物、ゴミ出し時には近隣の方と挨拶を交わしている。また、近所の方から家庭菜園で取れた野菜の差し入れがある。地区の役員が事業所に協力的で、コロナの前は地区の防災訓練やお祭りに職員と利用者が出かけたり、ボランティアの訪問も多くあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2カ月に1度開催して、毎回地域の方々の参加があります。そのつながりから、入居相談などがあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況などを報告して参加されている方々から、質問やアドバイスを頂いています。	管理者が自治会の総会に出席し、会議の年間計画を渡している、その為役員や婦人部の方が毎回、複数参加してくれる。家族には月時報告書と一緒に参加の要望を送付している。会議では活発な意見交換がなされ、参加者からの意見はサービス向上に活かしている。テーマを決め職員が持ち回りで講師になり研修を行なっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に連絡を取りながら、協力をお願いします。	地域包括支援センターの職員は毎回運営推進会議に参加し、意見交換を行ない、市役所の職員は年に2~3回参加してくれる。生活支援課とは情報を得たり協力依頼の為、連絡を取り合っている。グループホーム連絡会が3ヶ月に1度開催されていた時には、参加していた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員に周知し、拘束になる様な事は、行っていません。身体拘束防止の研修も行っています。	マニュアルは整備され、委員会は管理者、2階のリーダー、事故委員の3人で構成し、年4回、会議を行なっている。研修は全職員で年に3回実施している。研修内容は事業所内の話し合うべき事例を取り上げ、意見を出し合っていて、話し合った内容は法人に報告している。	

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、情報の共有や意見を交わす事で防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様個人の必要に応じて、対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、書面をお渡しして説明し、ご理解、納得のいくまでお話しして、後にサインを頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置、御家族の面会時に、状態や状況をお話させて頂いています。ご相談などは、その都度対応しています。	家族の面会時に、利用者の様子を報告して、意見や要望を聞いている。主に管理者やリーダーが対応しているが、不在の場合があるので、家族に誤解や不安を抱かせないように、利用者の様子は職員間で情報を共有し統一して話をするようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2カ月に1度、定例会の実施。カンファレンスも必要時に開催し意見を出し合っています。	定例会議は2ヶ月に1度、できるだけ多くの職員が出席できるよう夕方実施している。職員間で活発な意見交換がされていて運営に活かしている。管理者も現場の様子を把握しているので状況がよく伝わる。法人の評価制度の用紙にも職員が意見を記入する欄が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度、管理者会議を本社にて開催。ホームの状況、職員の状態など報告しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務しながら資格取得。 ホーム内でスタッフによる研修会があります。ホームクリニックの研修会もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修だけでなく地域包括の主催で、地域のグループホームを対象に情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報をもとに、正確やこれまでの生活状況を把握した上で声掛けや傾聴し、安心して生活を送ることが出来るように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に御家族のご要望や不安を伺う機会を作り、良好な関係を構築できる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分に行い、課題分析をしニーズを見極め、今後の支援に必要なことを考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で家事など、出来る事はしてもらいながら、各々が役割を持って生活が出来る様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月次報告や面会時に現状をお伝えし、御家族からも要望をお伺いして支え合う同士の関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族だけでなく、御友人など面会は誰でも自由にして頂いている。	家族や兄弟の訪問が多く、利用者の外出や外食等に家族が協力して対応してくれる。事業所の近くのサレジオ学園の生徒がクリスマスの頃に訪問し、利用者と交流する機会が長く続いている。コロナ以前は定期的に地域のボランティアの方々が事業所を訪れていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1・2階の利用者様共に、御本人の意思を大事にしなが、日々の交流をしています。利用者様同士の関係を把握し、場合によっては席替えをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方々から、相談があればその都度、対応し支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや希望にそえる様、各々話を傾聴しています。伝える事の出来ない場合は、日頃の様子を観察し、スタッフと話し合い検討しています。	利用者の話を聞く際は、職員は作業の手を止めて、傾聴するよう心がけている。また、自室にいる利用者には時間を見計らって、声掛けをしている。利用者に関して知り得た情報や様子は申し送りノートや支援日誌に記入し、情報を共有している。事業所の研修で傾聴を取り上げ、職員はスキルアップしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメントを行い、今までの生活把握に努めております。日常会話や御家族の方々から聞く事ができます。得た情報は、職員全員把握できる様しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの日常において、かかわりを持ち観察をする事で現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、職員同士で話し合い現状にそった計画が出来ています。状況に変化があった時は、すぐに話し合い介護方法等変更しています。御家族からも面会時やTEL等で要望を伺っております。	ケアマネジャーと休みの職員も参加して、毎月、ユニットごとにカンファレンスを行なっている。介護計画書の更新の利用者を主に、気になる状態の利用者を優先的に話し合う。介護計画書はカンファレンスの内容を基に医師、看護師、作業療法士の意見も聞いて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アイパッドに経過記録を入力、支援日誌は手書きで記録し、職員間で情報の共有に努めています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、その方に合わせた柔軟なサービスを行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サレジオ学園やボランティアの方々のご協力を頂き交流をしています。歌、バイオリン、演奏会、踊りなど、ご利用者様に楽しんで頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、ホームクリニック等の往診しています。急病時等、臨時往診もしています。	3名の利用者が以前からの協力医に、他の利用者は他の協力医の往診を利用している。毎日、協力医の看護師が利用者の様子を電話で確認してくれ、体調に変化がある場合は対応を指示してくれる。看取りの研修があるので管理者が聞いて、他の職員に研修内容を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に1回ホームクリニック看護師による、健康チェックをしています。処置のアドバイスも受けています。指示により、受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との、情報交換は常に出来る様に、努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族、かかりつけ提携医、訪看と話し合い、希望に合い、希望に添った支援ができるよう、常に連携を取っています。	入居時に重度化や終末期について事業所の方針を説明している。重度化になった場合には、医師が家族に利用者の状態、これからの事を話し、事業所の職員も交えて、方針を共有し、看取りの契約を行なっている。看取りの時に家族が事業所に宿泊する場合もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修、ホーム内の研修、定例会での勉強会、現場での経験を活かし、対応出来る様努めています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いの訓練や、会議等でシュミレーションを実施したり、様々な時間帯や火災地震等の訓練をしています。防災研修に参加しています。	自治会が防災に力を入れているので協力的で、地区の防災訓練に職員と利用者が参加した事もある。事業所の防災訓練は防災委員が中心になって行なっている。運営推進会議で防災訓練を見てもらい意見を伺ったこともある。夜間想定訓練も実施したが消防署の意見をもらえていない。備蓄は台帳が整備され、3~7日分ある。	消防署に夜間想定訓練に参加してもらい、問題点を自治会と相談して対策を立てられるよう期待します。長期停電の対応策も職員で話し合っ、災害に備えられよう期待します
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線を合わせ、声をかけたりお話を聞く様になっています。	事業所はスリーロックの研修や人格を尊重する研修を行なっている。利用者の呼び方は原則さんであるが、ニックネームで呼んで欲しい等の要望がある場合は家族に了解を取っている。行事等の利用者の写真は月時報告に添え、プライバシーに配慮して本人家族に渡している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居間で将棋などをされるか、自室で休まれるか希望を聞いてから誘導をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴予定日でも、御本人が入りたくない様子であれば、別の日に変更しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御自分で服を決められる方には、クローゼットなどから、服を出してもらいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクリエーションなどで、季節感のある食事を提供できるように計画しています。	食材は2~3日に1度スーパーマーケットで購入し、献立が重ならないように気をつけ、メニューを決めている。調理アシスタントの勤務の日には調理してもらい、それ以外は職員が手作りしている。行事食もレクリエーション委員が企画して楽しみを創出し、職員も全員同じ物を食べている。利用者にはお盆や食器拭きを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分ゼリーを用意しデザートに召し上がって頂き、水分摂取を促しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをしています。お1人で歯磨きが出来ない方には、御自分で磨かれた後、仕上げ磨きをしています。又、拒否のある方には、様子をみながら実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとにトイレ誘導の声掛けをしています。拒否のある方には時間をあける等して誘導しています。布パンツ、紙パンツ、パットは昼夜それぞれの時間に合わせて使用しています。	排泄表で排泄のパターンを把握して声かけをしトイレ誘導を行っている。利用者の状態に合わせて適切なパットやパンツを利用している。骨折をした利用者がリハビリを行い、布パンツまで改善したケースがある。転倒防止のために夜間のみポータブルトイレを利用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く使った調理を心がけています。乳製品や寒天を使ったゼリーもお出ししています。水分も時間ごとに声掛けをし、個人に合わせた容量で摂取して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタル測定、体調をみて声掛けをし入浴して頂いています。更衣・洗身等、御自分で出来る事はして頂いています。拒否のある方は、時間を変えたり次の日に声掛けをしています。	入浴前にはバイタル測定をし、体調を確認して、少なくとも週に2回は入浴してもらっている。希望する利用者には回数を増やして対応している。入浴剤を利用してリラックスしてもらい、利用者と職員が1対1になるのでゆっくり会話をする機会になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のご希望で自室で休んで頂いています。又、様子をみてこちらから声掛けをして、休んで頂く事もあります。天気の良い日に外に出て散歩や日光浴を楽しんで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、入居者様の名前、日付、薬の確認をしています。服薬後の確認を別のスタッフがしています。薬が変わったり、増減された時は、体調の変化を確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の出来る範囲で家事を、お願いしています。体調が悪いとお断りされる方もいらっしゃいますが、ほとんどの方が快く引き受けて下さいます。月に1回入居者様全体で、レクを楽しんでいます。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様と一緒に、ホーム近くのお店に買い物に行くようにしています。気候や天候の良い日にホーム周辺へ、散歩にいきます。	JRの駅に近い商店街にある事業所なので、歩いて行ける距離にお店や私鉄の駅があり散歩をしたり買い物に行ったりする事できる。馴染みの店に外食に出かける事もあった。コロナ前には電車に乗って買い物に出かけたり、家族の面会は土日が多く外出や外食に連れ出してくれる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて、入居者様全員のお金を管理させて頂いております。御本人必要時、一緒に買い物に出掛けます。買い物困難な入居者様にたいしては、ホームにて代理購入しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望に添って電話や手紙のやり取りがスムーズにできる様に対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、毎日小まめに清掃、消毒を行っております。気候に合わせて空調を整え、季節をモチーフにした壁画を考え入居者様と仕上げをし、飾ったり季節にあった花を生けたり、季節感を出しています。	施設内は整理整頓が行き届いていて、清潔感がある。感染予防も兼ねて、居間や洗面台などは夜勤の職員が念入りに清掃をしている。1階は庭があり、窓から緑がみえ、共用部分には季節感がある作品が掲示されている。調査当日は、2階で職員と一緒に季節の作品作りをしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外にベンチを置いて、季節に応じ使用しています。居間では、個々に席を決め安心してくつろいで頂き、将棋セット・CDラジカセを置き、入居者様に自由に使用して頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベッドは、入居者様が使いやすい位置に設置し、馴染みのあるものを置いて過ごしやすいよう工夫しています。	天井までの高さのクローゼットがあり、衣類や季節の布団などが収納され、部屋の中が整理されていて、動線が確保されている。居間に飾っていた作品を自室に掲示して華やかな雰囲気になっている。家族が利用者の好みの物を持ちこんで居心地よくその人らしく過ごせるように飾ってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内を入居者様がスムーズに行き来できる様に物の設置を確認しています。個人の物をわかりやすく、置いてあります。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202502		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙織音		
所在地	静岡県静岡市清水区草薙2丁目22-10		
自己評価作成日	令和2年8月5日	評価結果市町村受理日	令和2年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202502-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 2 年 9 月 19 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が心地よく働ける環境作りが、入居者様への細やかなサービス・ケアに繋がっていきと感じています。看取りも今後、増えていく状況になってきていますので、更に1日1日を大事に入居者様にメリハリのある時間を、過ごして頂きたいと努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で、地域につながる理念のアイデアを出し合い、いろいろな言葉を集め、作りました。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのお店の方、近所の役員の方など、散歩やホームの前にいると挨拶を交わしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2カ月に1回開催し、毎回地域の方々の参加があります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況報告などをお伝えして、ご参加の方々から、質問、アドバイスを頂いています。委員会でやっている内容を職員がまとめて発表もしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時に、連絡を取りながら協力をお願いします。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に周知し、拘束は行っていません。身体拘束防止の研修も行っていません。玄関、居間ドアの施錠もしていません。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、意見を交わしながら防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様個人の必要に応じて、対応しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、書面をお渡ししてご説明し、御理解・納得のいくまでお話し、後にサインを頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱設置・ご家族面会時に状態や状況をお話させて頂いています。ご相談など、その都度対応しています。何かあれば、意見を出したり聞いています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2カ月に1度、定例会の実施。カンファレンスも必要時開催し、意見を出し合っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度、管理者会議を本社にて開催。ホームの状況・職員の状態など報告しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務しながら資格取得。ホーム内での職員による研修会があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な交流を図っていましたが、コロナウイルスの自粛要請につき、交流を控えています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ちょっとした事でも、気兼ねなく話して下さるよう、お気持ちに寄り添っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族からのご意見や問い合わせなど、すぐに管理者に報告し、良好な関係を保つ努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ベストな支援が出来るよう話し合い、サービス提供をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの理念に「我が家」とあるように、家族のような親しみのある関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族、御友人の面会時は、ゆっくりと過ごして頂いています。現在、コロナウイルスの対策により、30分間の面会時間となっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交流が出来るよう努めています。現在、コロナウイルスの要請にて、外出は控えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人、お一人個性があるので、気が合う方と楽しく過ごして頂くよう、又そうでなくても交流できるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族様に、ここで過ごして良かったと思って頂けるよう、努めています。終了後の良好な関係につながるようにと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思のある方は、なるべくお気持ちを伺い、添ったケアを、そうでない方でも、お気持ちを汲み取れるよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所後の変化、その方にとって苦痛に感じないよう、これまでの生活を考慮し、馴染むよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、変わりばえないようでも、変化しているので、意識しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に話し合い、日々変化していく状況に対応出来るよう、努めています。それに合わせて、ケアも更新しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ちょっとした事柄でもすぐに報告、相談し、リーダー、管理者と共有、計画しています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人や御家族の状況、変化に対応し柔軟な支援やサービスに努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ自粛期間以前は、ボランティアの方々にご協力頂き、歌や踊り、バイオリン、演奏などを、入居者様に楽しんで頂きました。コロナ安全対策、治療法など確立した際は、又お願いしたいと思っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、ホームクリニックによる定期往診受けられ、急変、急病時はすぐに電話相談。必要な場合は臨時往診で対応しています。御家族にも報告し、ご希望があればDrに伝えていきます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に1回ホームクリニック看護師による健康チェックをしています。日常での気づき報告、相談し処置などのアドバイスも受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換や相談は、常にできるように関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族、かかりつけ医と話し合いを重ね、できる限り、ご希望に添えるように取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修、ホーム内研修、勉強会で学び、現場での対応で実践力向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いの訓練や会議等でシュミレーションを実施したり、様々な時間帯や火災地震等の訓練をしています。防災研修に参加しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線を合わせ、声をかけたり、お話を聞く様にしてしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居間でレクリエーションなどをされるか、自室で休まれるか希望を聞いてから誘導しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴予定日でも、ご本人が入りたくない様子であれば、別の日に変更しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御自分で服を決められる方には、クローゼットから服を出してもらいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクリエーションなどで、季節感のある食事を提供できるように計画しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分ゼリーを用意し、デザートに召し上がって頂き、水分摂取を促しています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け実施して頂きます。必要な方には、介助しています。又、一人一人にあった物品を使用して頂いたり、夜間義歯の洗浄剤につけるなどしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人合わせ誘導、声掛けを行っております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人合わせ、牛乳やヨーグルトをお出ししています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調をみながら、入浴を実施しています。入浴中も一人一人に合わせた入浴時間で自分のペースで楽しんで頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、眠れない方は、かかりつけ医と相談しています。日中は必要に応じて、自室にて休んで頂いたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬毎、名前、日付、薬の確認を行っています。薬の変更があった場合は、申し送りノート記入し、職員全員が確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割として一人一人に合わせた家事を、行って頂いています。季節にちなんだイベントなどを行い、楽しんで頂いています。		

静岡県()

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様と一緒に、買い物、散歩、ドライブ、外食等行っています。しかし、現在はコロナの影響で出来ていません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて利用者様のお金を管理しています。御本人の希望や必要に応じ、今は職員が購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望で電話をしたり、手紙のやり取りが出来るよう対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、常に清潔に保つよう心がけ、入居者様と一緒に四季が感じられるよう飾りつけをしたりと居心地の良い空間を常に考え実行しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間においては、御本人の席を決めています。ソファーや和室でもくつろげる様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、御本人が気に入っている物など、私物を置いたりカレンダーを置いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の物には、わかりやすく名前を書いたり、置いています。洗面所や脱衣所には、しっかりとした椅子を配置しています。		